

名古屋行き

松井淑子

先日、名古屋に所用があるという友だちについて、名古屋に日帰り旅行をした。

東海道・山陽新幹線のものぞみ号が停車する十一の駅、品川、新横浜、名古屋、京都、新大阪、新神戸、岡山、広島、新山口、小倉、博多のうち、名古屋を除く十の駅には降りて街を歩き回ったことがあるが、名古屋だけは降りたことがない。いや、松阪、伊勢方面にゆく紀勢本線に乗り換えるために三回ほど降りたことはあるが、改札を出なかったのだから、これは降りたうちには入らないだろう。

両親がまだ健在で、お盆休みなどに中国地方の実家に帰っていたころは、新幹線で名古屋を通るたびに、名古屋とはなんと暑苦しく殺風景で魅力のない街だろう、と思ったものである。ただ見てみたいと思うところは三カ所ほどあった。源氏物語絵巻を収蔵する徳川美術館と草薙剣を祀る熱田神宮、それに名古屋城である。

朝九時半ごろ東京を発ち、昼ごろ名古屋に着いた。友だちが用足しにいつている間、私は独りで熱田神宮を参拝し、友だちの用事が終わったところで一緒にお城を見ることにして、お城のそばで友だちと別れた。

駅の観光案内所でもらった地図によると、名古屋には名城線という地下鉄が、東京の山手線のように市内をぐるっと回っており、熱田神宮はその沿線にあるらしい。まずはお城近くの地下鉄の駅を探す。向こうから来た二人連れの女性に尋ねると、「私たち観光客だから……」と断られる。つぎに会った五人グループは、アジア人だが話している言葉が中国語らしくてこれも駄目。独りで歩いてきた男性に尋ねてやっと教えてもらう。

熱田神宮は鬱蒼とした森に囲まれた、ちよつと明治神宮を思わせるお社である。大鳥居を二つぐつて社殿の前に進む。外国人の姿が多い。ご神体の草薙剣は、景行天皇の皇子の日本武尊が天皇の命令で東国征伐に出掛けた際、敵に野火を放たれ、その火をこの剣で薙ぎ払って難を逃れたところからこの名があるという。だがさらにその昔は天叢雲剣と呼ばれ、天皇家の祖神天照大御神の弟の素戔嗚尊が、出雲の簸川（今の斐伊川）にいる頭と尾が八つある八岐大蛇を退治して奇稲田姫を救ったとき、その尾から出たものといわれる。子供のころ小学校の国史の授業でそう教わり、今でも忘れられない物語だが、今はそんなことは教えないだろう。

剣がご神体であるせい、付属の宝物館には国宝や重要文化財の刀剣や、現代の刀工たちの手に

なる作品がたくさん展示されていた。最近、日本刀ブームで、ことに女性たちの間でもてはやされていると聞いたことがあるが、なるほど見れば見るほど美しい。

宝物館で時間をとってしまい、友だちとの約束の場所に戻ってきたときは夕方の四時を回っていた。これから名古屋城の城内見学は無理とわかり、東京に戻ってきた。

大字 柏崎

小野澤繁雄

散歩のような歩きでは、橋があれば渡り、通りがあればこれも渡る。たまたま信号が青だったと
いうことだけでみちを横断することもある。川や通りが町や町内の境になっていることが多い。そ
んなことで、散歩では大抵複数の町内を跨いで歩いている。

じぶんの住む町内は丘陵のはずれで、もとは見渡す限り水田だったところ。土地改良で近隣の町
内ができた。それが、できてからせいぜい四十年の経過らしい。隣り町内の中学校がことし四十周
年のお祝いになっている。

そういうことでは、近隣の住民はみな新興住民である。

あるとき、たぶん古凍ふるこおりを歩いていたときとおもう。大型の犬を連れている、というか大型の犬に
リードでつながっているおばあさんとすれ違った。そのときは、なぜか犬種を聞いていない。大型
の犬をみかけることはそうないことで、大型犬ということでは、ボルゾイであったときは、それ
も二頭を女性がつれていたのであったときは、さすがに驚いた。ロシアで狼狩りにつかわれると